

令和5年度 倉吉市小学校・中学校PTA連合会と倉吉市教育委員会
倉吉市人権教育研究会共催の教育講演会【報告】

1 目的

倉吉市小学校PTA連合会、倉吉市中学校PTA連合会、倉吉市教育委員会、倉吉市人権教育研究会が共催で教育講演会を開催することで、児童生徒、また児童生徒を取り巻く環境について課題を共有し、講演等を通して、児童生徒の健全育成をめざす。

2 日時 令和5年10月28日(土) 13:30~17:00

3 会場 鳥取県立倉吉体育文化会館 大研修室

4 内容

- ・講演「共生社会を創るには? ~ちがいを活かす保育・教育から~」
- ・映画『みんなの学校』上映
- ・講師との意見交換

講師:堀 智晴 氏 (インクルーシブ(共生)教育研究所所長)

5 参加者 倉吉市小学校・中学校の保護者・教職員 (一般参加者あり)

6 参加者の感想

【保護者】

- ・木村校長先生が、その子ども一人ひとりに合った言葉かけをしているところが印象的でした。「暴力暴言を振るわない」と紙に書いて校長先生に約束して子どもを褒めた後 本心では 疑心暗鬼だったことをカメラマンに話す姿に、校長先生が「綺麗事を言わない。子どもに100点を望んでいない」「一瞬一瞬は本気だった」ことを褒めた姿勢に感動しました。
- ・本物との出会いでした。だから感動をしたと思います。それぞれの立場で、思うことがあったと思います。学校の先生と子ども達と地域の人達が ONE TEAM。今の子ども達の学校環境にはない、本来の学校の姿だと思いました。
- ・映画は以前から観たかったので、観ることができて良かったです。木村校長先生をはじめ大空小学校に関わる全ての人が、一生懸命でありのままぶつかり合う姿に感動でした。どの学校もこうであればいいのと思いました。
- ・保護者として、もっと学校に関わりたい気持ちはあるのですが、関わり方が固定化してしまっていて、思うようにいかないジレンマがありました。もっと学校、保護者、子ども達、地域で、みんなでよい学校にするという目標に向かって、柔軟に動くことができたらと思います。
- ・インクルーシブ教育について、小学校段階では可能なのかもしれないが、中学校段階では難しくなるのはどうしてなのかな…と感じています。先生方の子どもに対する体当たりの指導がとても心に残りました。職員集団としても素晴らしかったです。

- ・こういう学校があれば子どもが安心して学校に通うことができると思います。子どもの気持ちに寄り添い考えている先生方の姿が素晴らしかったです。子どもたちにも映画を見てほしいので、学校でも映画を見る時間を作ってほしいと思います。
- ・映画を見て、障がいを持つ子どもや、生きづらさを感じる子どもに焦点をあててありましたが、他の子ども達はどう感じているのか興味がありました。また、この小学校を卒業した後の子どもが、中学校に行って馴染めるのか疑問に感じました。思ったよりも、すっきりとした気持ちにはならなかったのは残念です。
- ・映画に感動しました。木村先生他、映画に登場された先生のように、子どもに全力で向き合ってください先生がどれだけいるのでしょうか。そして、登場する生徒が、皆でそれぞれを支え合っている姿を我が子にも学ばせたいです。あれだけの助け合いを小学校で皆が身につけられたら、社会に出てから、弾く人弾かれる人は、減るのではないかと感じました。先生達も大変なご職業だとは思いますが、いろいろな子どもや保護者がおられます。それでも、子ども、保護者に誠実に向き合ってください存在であって欲しいと願います。参加者が思ったより少なかったように感じました。保護者もそうですが、教育に携わる方にもっと聞いて欲しいと思いました。
- ・私自身親として、まだまだ未熟であり、子どものありのままをもっと受け止め、認める努力をしていきたいと感じました。参加させて頂いたことに、感謝いたします。
- ・こういう学校作りができるのか？と感じながら、できたら素晴らしいなと思います。それについて、保護者の自分ができることは何だろうと考えさせられました。
- ・映画を見て感動しました。今の教育現場は先生に個性がないように思います。一人一人が違って当たり前！！それが生かされる現場であってほしい。こんなに一人一人を見てくださっていますが、保護者としては先生の働き方改革にも気をつけてしまいます。理想と現実も考えてしまいました。
- ・映画が制作されて約10年が経過しています。日本は、経済格差の広がり、経済成長の鈍化、新型コロナ感染症など、複雑化しており、その影響を子どもたちはダイレクトに受ける可能性があると思います。地域、大人の姿が子どもの姿のため、私たちがひとりひとり出来ることは何かを考える機会となりました。

【教職員】

- ・多様性を受け入れると言いながら、疎外し、学力で優劣を決める学校に違和感を感じていました。映画を観て、涙が止まりませんでした。ぜひ、たくさんの人に見てほしいです。
- ・映画の素晴らしさに感動した。児童一人一人のよさや課題に寄り添える教職員でありたいと感じた。
- ・インクルーシブ教育についての考え方が、よく分かりました。
- ・「みんなの学校」の映画を観て、心を揺さぶられるほど感動しました。子ども一人一人を大切にすると簡単に言葉にできないほど、子どもたち一人一人が輝くための実践があった。「自分がされて嫌なことはしない、言わない。」が、学校の要であり、教職員、子どもたち、保護者、地域に浸透し、広がっていることもすごかったです。毎日の取り組みに生かしていく決意をしました。
- ・映画を見ることができてよかったです。みんなが安心して通えるみんなの学校、今自分の勤務している学校はそうなっている？自分はみんなを本当に理解しようとしている？と振り返る時間を持つことができました。

- ・「みんながつくる みんなの学校」…とても大切なことだと思いました。改めてまた頑張ろうと思いました。今日は貴重な機会をありがとうございました。
- ・教育の原点を考えさせられるすばらしい映画でした。多様化の時代、教育がどうあるべきか、今日の研修で得たことを日々の教育活動で実践していきたいと思います。ありがとうございました。
- ・校長先生の人間性がとても印象強く、経験と信念を感じました。この小学校を卒業して、中学校や高校、社会でうまく自分の生きる場所を見つける力を持っていると、子ども達は本当に幸せだと思います。
- ・以前から見たかった映画でしたので、上映していただきありがたかったです。先生方の子どもたちへの思いの強さと、そのことに裏打ちされた行動に胸が熱くなりました。子どもたちは大変で、軽々しく言えることではないと思いますが、やはりかわいくて、笑顔に救われました。木村校長先生、職員の皆さんと会えてほんとうに良かったね、と伝えたいです。
- ・自分とは異なる考え方を持つ人達と、分かり合おうとするところから、誰にとっても住みやすい社会は実現すると思うということを気づかせていただいたという意味でもいい研修会でした。